

今日のトピック 米国株式市場～深まる混迷

NYダウは約3年1カ月ぶりに2万米ドルを割り込む

NYダウは約3年1カ月ぶりに2万米ドルを割り込む

金融市場の混迷深まる

■ 3月18日の米国株式市場は、NYダウ工業株30種平均が前日比▲1,338.46米ドル、▲6.3%と再び大幅な値下がりとなりました。また、米国10年国債利回りは、前日比で0.11%の大幅上昇となり、1.19%となりました。新型コロナ対策による財政支出に伴う国債増発に対する懸念が一挙に強まったことが背景です。一方、原油先物市場では、WTIが20.37米ドル/バレルと、2002年2月以来の安値となりました。サウジアラビアが過去最高の生産を維持すると表明したことが嫌気されました。

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかる時期を根気よく待つ展開

■ 3月18日時点でNYダウ工業株30種平均の史上最高値からの下落率は▲32.7%となり、ITバブル崩壊時の下落率を上回りました。これ以上下落した局面は1900年以降で3回あります。世界各国で金融・財政政策が発動され、政策のさらなる追加も十分想定されます。その効果は、新型コロナウイルスの感染拡大が転換点を迎え、人・モノの移動が正常化する中で、発揮すると考えられます。当面は、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかる時期を根気よく待つ展開が続きます。

【NYダウ工業株30種平均の代表的な下落局面の整理】

出来事	底値 (年/月/日)	価格 (米ドル)	30日前比 (%)	1年内 高値比 (%)
世界大恐慌	1932/7/8	41.22	▲ 16.0	▲ 72.0
リーマン・ショック	2009/3/9	6,547.05	▲ 18.9	▲ 49.9
ブラック・マンデー	1987/10/19	1,738.74	▲ 32.1	▲ 36.1
ITバブル崩壊	2002/10/9	7,286.27	▲ 17.4	▲ 31.5
第2次世界大戦	1942/4/28	92.92	▲ 9.4	▲ 28.6
LTCM破綻危機	1998/8/31	7,539.06	▲ 18.9	▲ 19.3
米国の債務格下げ	2011/10/3	10,655.30	▲ 1.5	▲ 16.8
現時点				
新型コロナウイルスの感染拡大	2020/3/18	19,898.92	▲ 30.9	▲ 32.7

(注) データは1900年1月2日～2020年3月18日。

■ は現時点の下落率を上回る局面。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

- 世界大恐慌・・・1929年に始まる大恐慌。米国は20年代に世界一の経済大国（債権国）に。過度な投資や農作物の生産過剰などから株価が暴落。世界恐慌につながる。
- リーマン・ショック・・・2008年9月15日に、米国大手銀行であるリーマンブラザーズの破綻とそれを原因とした世界同時不況。
- ブラック・マンデー・・・1987年10月19日の月曜日に起きたNY市場の大暴落。
- ITバブル崩壊・・・インターネット関連企業の実物投資や、同株式への行き過ぎた投資に対する反動と崩壊。
- 第2次世界大戦・・・1939～45年に勃発した人類史上2度目の世界戦争。
- LTCM破綻危機・・・Long Term Capital Managementという有力なヘッジファンドの経営破綻。
- 米国の債務格下げ・・・2011年8月5日にS&Pは米国債の格付けを「AAA」から1ノッチ引き下げて「AA+」とした。法定債務上限の引き上げの4日目というタイミングで格下げたことにより、市場にショックが走った。

(出所) 各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**

2020年3月18日 コロナ対策で世界各国・地域が『行動制限』を強化

2020年3月17日 各国・地域の対策でも止まらない株式市場の下落

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。